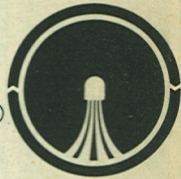


第22、23合併号

ほんきょうろ
本郷とは人類の本当の故郷(地上天国)
という意味です。従って、本郷路とは
地上天国実現のための道路です。
(題字は文鮮明師)



本郷路

昭和61年(1986年)11月1日発行

発行所 国際ハイウェイ建設事業団
東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大森ビル3号館4F TEL 03(496)2893
THE INTERNATIONAL HIGHWAY
CONSTRUCTION CORPORATION

日韓トンネル実現へ大きく前進



秋晴れのなか、日韓トンネル調査斜坑の掘削開始を祝い、各界代表者によるテープカットが行われた

斜坑の掘削始まる
日韓トンネル調査斜坑起工式

唐津事務所

国際ハイウェイ建設事業団(会長 久保木修己)は、十月一日、佐賀県西町の極東開発(株)名護屋試験場で、日韓トンネル名護屋調査斜坑の起工式を行った。

起工式はトンネル坑口前の広場で行われ、祝儀のおと久保木会長が関係者各位に感謝の意を表し、一中国からハイウェイ建設の強い要請があり、今後は日韓トンネルと同時に、中国大陸のハイウェイ建設を進めてゆかなければならないと警告している。

調査の施工法の研究も行われ、日韓トンネルの基礎資料として利用されることになる。また将来は、本坑建設時の作業坑として使用される可能性もある。今回の工事では、総延長千三百メートルの掘削計画の内、第一期工事として二百メートルが予定されており、(株)熊谷組三井建設(株)の共同企業体が施工にあたり、来年三月を第一期分の完了予定としている。



自由公路
アジア大会での韓国の躍進ぶりに驚かされた。金メダルの数は日本を抜き去り中国と肩を並べた。競技にかける意気込みが最初から違っていた。だが、88年のオリンピックはどうか? さういふことは、インドの詩聖タゴールが「 코리아, あなたは東方の明るい光になるであろう」と謳っていた。韓国は二十年前の日本に似て、アジアの希望の星として注目を集め、今や日の出の勢いである。文明の流れが日本から韓国へ、中国へと大きく傾いてきた。また、この中で先月、日韓トンネル斜坑の起工式が佐賀県西町で行われた。内外から多くの来賓が訪れたが、なかでも韓国から九名の大学教授が式典に出席したことは、非常に意義あることだ。この場所はその昔、秀吉が朝鮮出兵した際の地であり、その遺跡が今も残っている。因縁の地から日韓をつなぐトンネル工事が出発した訳だが、韓国と両国の歴史もこのトンネル建設で新しい友好の歴史になる」と語った。彼等を感心させて平和世界の表現はない。◆国境を越えるハイウェイは、民族間の怨も越えさぐり、潜在的な問題までも精算しなければならぬ。これを可能にするには高度な理念と宗教的発想が必要となる。国際ハイウェイの素晴らしは、それを備えていることにある。

会長挨拶

日韓トンネル調査斜坑の起工式における挨拶より抜粋、要約
本日、福岡から参りましたが、朝方福岡では雨が激しく降っていました。ところが車庫に近づくと、雨は降り止み、今日はまさに秋晴れといえるほど晴れあがっています。



秋晴れのなか、日韓トンネル調査斜坑の掘削開始を祝い、各界代表者によるテープカットが行われた

中国のハイウェイも早期建設を

国際ハイウェイ建設事業団会長
久保木 修己

調査の施工法の研究も行われ、日韓トンネルの基礎資料として利用されることになる。また将来は、本坑建設時の作業坑として使用される可能性もある。今回の工事では、総延長千三百メートルの掘削計画の内、第一期工事として二百メートルが予定されており、(株)熊谷組三井建設(株)の共同企業体が施工にあたり、来年三月を第一期分の完了予定としている。

未来をつなぐ国際ハイウェイ・プロジェクト



国際文化財団創設者 文鮮明師
私は、一つの提案をしたいと思います。それは中国から韓国を通り日本に至る「アジア大ハイウェイ」を建設し、ゆくゆくは、全世界に通じる「自由圏大ハイウェイ」を建設することです。これは中国大陸から韓半島を縦断し、トンネルあるいは鉄橋で日本列島に連結して日本を縦断する一大国際ハイウェイで、ここでは自由が保障されるのです。もしこれが建設されるなら、アジア諸国はハイウェイで連結され、一体化されることが出来ます。そうすれば、経済や文化の交流が頻繁となり、アジア共同体が形成されるのです。

- ビデオ ●「本郷路」国際ハイウェイ(10~15分、日、英語)
パンフレット ●「国際ハイウェイ・プロジェクト」(B5判、日、英語)
●「国際ハイウェイ基本構想」(A4判変型)
新聞 ●「本郷路」月刊(タブロイド判4頁)
お申し込みお問い合わせ ☎03-496-2893

Table with membership information: 正会員 年額 1口 5,000円, 賛助会員 年額 個人 1口 10,000円以上, 年額 法人 1口 50,000円以上, お申し込み先 ☎03-496-9211

国際ハイウェイ建設事業団
〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大森ビル3号館4階 ☎03(496)2893



斜坑建設の歩み

日韓トンネル建設をめざし、九州側の建設拠点として、九州建設事業団唐津事務所(唐津市神田)が仮設されたのは、二年八月。唐津事務所では、斜坑建設の準備には、鎮西町の協力を得て、工事用地を確保、さそく測量が行われ、詳細な地形図が作成された。

着工前に十分な調査

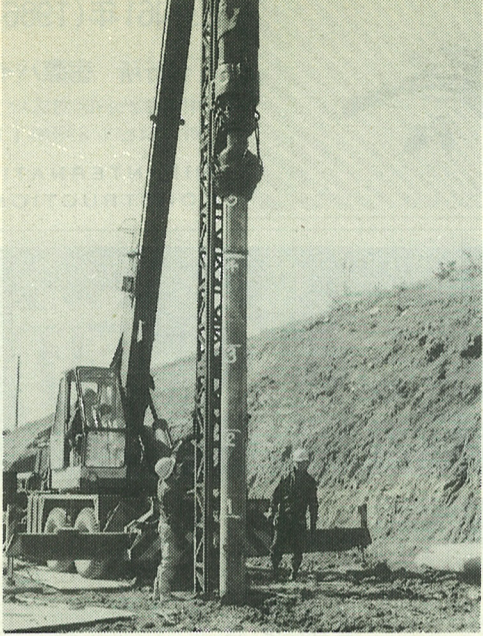
環境アセスも重要視する

翌八三年三月、唐津事務所が落成。同年九月には、斜坑用地内で弾性波探査、電気探査が行われ、概略の地質構造が明らかになった。そして十月、物理探査の結果をもとに、坑口予定地点から斜坑掘削方向に、七百メートルの斜坑掘削を実施。そのコアサンプルをもとに斜坑の掘削計画が具体的に進められた。

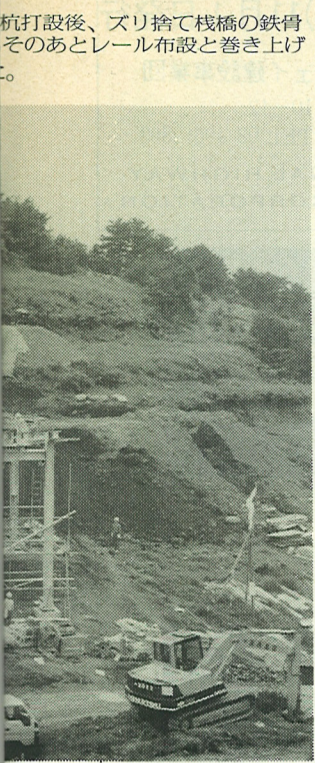
その間、加部島、喜岐、対馬の陸上部ではボーリング調査が行われ、海城部でも広範な音波探査が実施された。そしてこれらの調査結果をもとに日韓トンネル研究会では、トンネル比較ルート選定作業を進めていった。一方唐津で

カルバート製作のための開削工事と順調に工事は進められた。そして五月中旬、カルバートから在来工法に移る工区でアーチ型の取付トンネルが掘られるに及んで、工事現場はトンネル現場としての体裁が整った。

は、予想されるトンネルルートをもとに斜坑計画が急ピッチで進められ、八五年には掘削の工事が開始された。トンネル掘削の設備工事が順調に進められる一方、環境保全のため八月には、名護屋浦、水鏡、生物の現況調査が行われ、環境アセスにも十分な配慮がなされた。そして八月二十日、最初の発破が行われ、喜岐を



杭打ち工事 4月29日：大型杭打ち機によって、スリ捨て棧橋と擁壁の基礎杭打設が開始された。



建設、日韓新時代の礎に



建設の意欲高まる

発破の音で決意も新たに

十月一日、鎮西町の斜坑現場では、午前中、ドシャ降りの雨にみまわれたが、屋近くなる

十月一日、鎮西町の斜坑現場では、午前中、ドシャ降りの雨にみまわれたが、屋近くなる

白の幕が張りめぐらされて、世紀のプロジェクターの着工を感

理事事による祝詞、その後、の安全祈願と聖歌の唄が坑



起工式 フォトアルバム

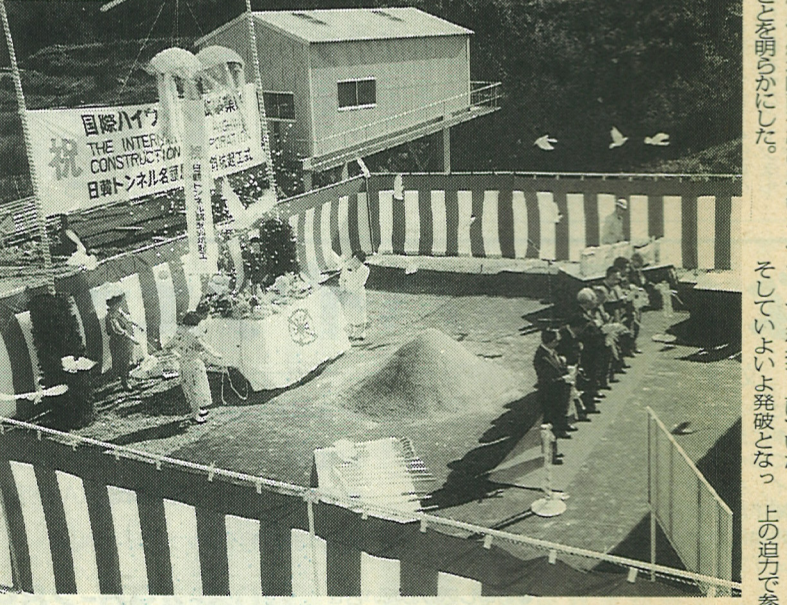
1986年10月1日 佐賀県鎮西町



ドシャ降りの雨にみまわれたが秋晴れとなった

久保木会長によって、斜坑掘削開始の発破スイッチが押された

そのあと三権者を代表して久保木会長があいさつに立ち、トンネル関係者や地元協力者による感謝の辞を述べ、中国大陸へのびるハイウェイ建設の展望を語り、会場から大きな拍手がわきあがった。



この発破によって、日本と韓国の間が数十倍縮まることになり、と語る梶栗理事長の言葉に、大きく頷く出席者。久保木会長が発破スイッチに手をかけると、サイレンの音が鳴り響き、一瞬の静寂の後、スイッチが強く押された。坑口から「ド」というダイナミックの爆発音が斜坑基地全体に轟くと全員総立ちになり、出席者のパンジーの歓声がさらに強く会場にこみよりました。

経過報告



以後、研究会の諸先生方の指導のもと、五年間にわたって海上及び陸上の調査活動が繰り返されてきました。そして現在では陸・海城部の調査もある程度終了、調査斜坑建設を通して具体的に岩盤や

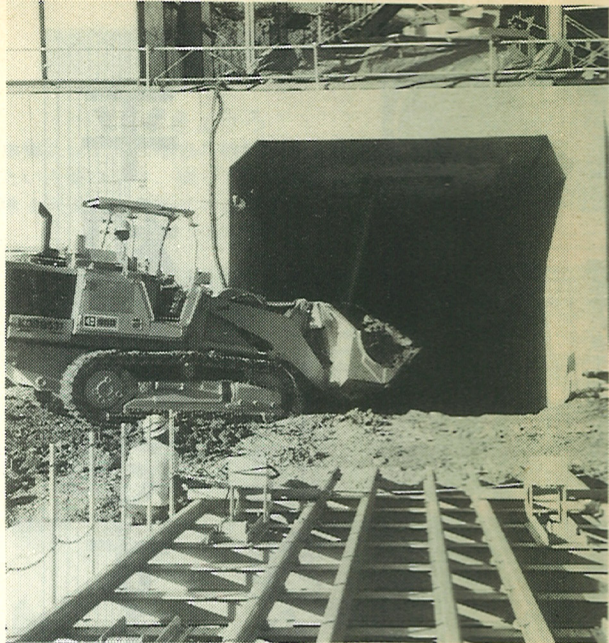
の協力者を得る

ハイウェイ建設事業団理事長 **梶栗 玄太郎**

このように技術的にも予算的にも無難といえるプロジェクトに挑戦しているわけですが、

皆様に御存知のように、国際ハイウェイ構想は、一九八一年十一月、ソウルで開催された第十回国際科学者会議の席上で、この会議を主催してこられた文鮮明先生によって提唱され、会議に参加した科学者達によって満場一致で決議されたものです。

このように技術的にも予算的にも無難といえるプロジェクトに挑戦しているわけですが、

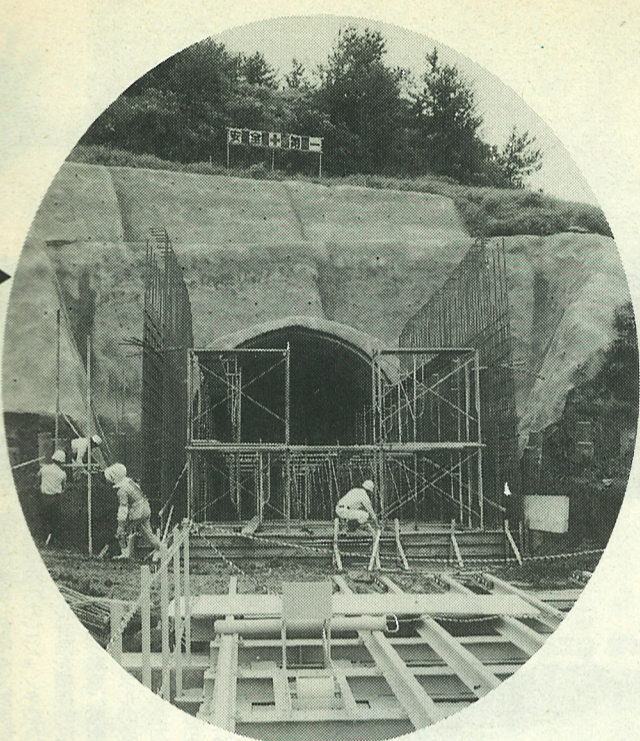


斜坑掘削の開始

8月30日：8月いっぱいまで、杭口設備関係の工事が終了。最初の発破が行われ、掘削が開始された。

斜坑坑口の建設

六月、七月、坑口となるボックスカルバート製作のため、鉄筋組み立て後、コンクリートが打設された。坑口上部にはコンクリートプラント設備を設置。



ズリ捨て棧橋の建設

5月～6月：基礎工事が行われた。ウインチの設置が行われ、棧橋上に建屋も建設された。



夢つなぐトンネル建設



起工式には韓国から九名の大学教授が参加(右から李恒準・鄭益大総長、鄭昌順・ソウル大学名誉教授、金鳳均・同名誉教授、高冠瑞・釜山水産大学教授、張善徳・同教授、金滋魯・釜山水産大学教授、曾丰大・釜山水産大学教授、李裕大・釜山大学教授)



事業名 国際ハイウェイ建設
工期 3年6ヶ月
安全 安全

国際ハイウェイプロジェクト 5年間の歩み

人間の理想を達成する手段の一つとして、全世界をハイウェイで連結しようという「国際ハイウェイ構想」がスタートして五年が経過した。

同構想が公表されたのは一九八一年十一月。韓国ソウルで開催された「第十回科学の統一に関する国際会議」の席上、国際文化財団創設者・文鮮明師によって提唱された。

文師の提唱を受けて、日本では、八二年八月から現場事務所が設けられ、調査が本格化された。

「勝手な国益の追求は、敵意と闘争をもたらすだけです。隣国の幸福と平和なくして自国の幸福と平和は維持できません。世界平和は、自国の幸福と平和を超越した全人類に対する愛という観点からのみ考えることができる」(八二年、文鮮明師)

「人類一家族という理想を現実とする方向で、東洋と西洋の諸国を連結するのが国際ハイウェイの構想です。この構想は、未来の理想世界を実現するための具体的な計画の一部です。世界の人々を一つに結ぶ高速輸送のネットワークをつくり、世界の至る所に一日以内で往復できるようなれば、それだけ地上天国の実現は早いといえるでしょう」(八二年、文鮮明師)



工事の無事を祈ってくわ入れが行われた(くわ入れする研究会役員)

設計委員会が発足し、翌二年、国際ハイウェイ建設事業団が発足しました。更に第十回科学者会議に参加された西堀泰三郎氏がこのプロジェクトに意欲的に取り組まれ、西堀氏の後継者である北大名善教授の佐々保雄氏を中心として八三年五月、日韓トンネル研究会が発足しました。

破碎帯等の調査を行い、トンネル建設の可能性を確かめるまでになったのです。もちろん今回の斜坑建設は、海底下の地質調査を目的としていますが、もし日韓トンネル本坑が斜坑の近くを通るとしたら、

術者の皆様の御指導により、これまで進めてきたことができた次第です。この場をかりて深く感謝の意を表したいと思います。今後とも、今後は日韓トンネル建設に向けて一層の努力を傾けてまいりますので、今後とも皆様方の更なる御協力をお願い申し上げます。

着実な研究に評価

韓国でハイウェイ研究会が発足

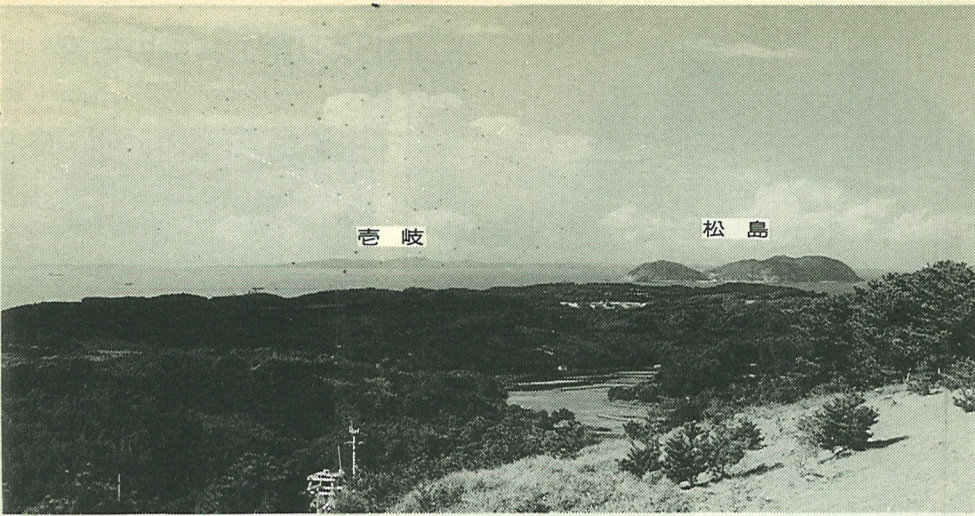
また八五年十二月には、韓国ソウルで日本と韓国の有識者懇親会が開かれ、日韓トンネル計画に対して両国間で活発な意見交換が行われた。そして八六年十月二十八日、韓国・ソウルで国際ハイウェイ研究会(会長 尹世元・前慶熙大副総長)が発足した。さらに翌二十九日には、国際ハイウェイ研究会釜山支部(支部長 高冠瑞・釜山水産大学教授)が設立され、日韓トンネルとして国際ハイウェイの実現に向けて、日本と韓国の協力体制が確立されることになった。

平和めざす道づくり

提唱理念の偉大さ賛美



日韓トンネル調査斜坑 起工式



松島 岐



懇親会では来賓の力強い祝辞が相次ぎ、出席者はトンネル建設への確信を強めた

タイマイの轟音と参加者のパンソクの歓声で起工式の第一部は終り、続いて会場を坑口上方の高台に移して第二部の懇親会となった。

各界を一望する会場からは遠く吉野山も望むことができた。参加者は、青く澄み渡った水平線上にぼんやりと浮かぶ吉野山を感慨深げに見入っていた。やがて足下を斜坑が通り、九州と若狭がトンネルで結ばれることになる。

大正益夫・事業団事務局長の

司会で懇親会は始まったが、まず研究会の佐々会長があいさつ。日韓トンネル計画に関わりをもったいきさつを語り、「このトンネル建設によって、韓国と日本は長き隣人とつながることができる。きょうから日韓トンネル建設が始まる。ゆけ」と、起工式の意義を訴えた。

続いて、韓国側を代表して尹世元博士が、ハイウェイ建設を通じて実現してゆく文鮮明師の世元博士へのビジョンを述べ、世界平和へのビジョンを述べ、日韓トンネル計画を積極的に進めてきた日本側の熱意に感謝しながら、「日韓トンネルの成功のため、韓国側としても全力を尽くしてゆきたい。今日は日韓両国の新しい歴史の起点を記念すべき日」と語った。

そのあと研究会九州支部の高

田支部長が、トンネル完成にかならず研究会の佐々会長があいさつ。日韓トンネル計画に関わりをもったいきさつを語り、「このトンネル建設によって、韓国と日本は長き隣人とつながることができる。きょうから日韓トンネル建設が始まる。ゆけ」と、起工式の意義を訴えた。

続いて、韓国側を代表して尹世元博士が、ハイウェイ建設を通じて実現してゆく文鮮明師の世元博士へのビジョンを述べ、世界平和へのビジョンを述べ、日韓トンネル計画を積極的に進めてきた日本側の熱意に感謝しながら、「日韓トンネルの成功のため、韓国側としても全力を尽くしてゆきたい。今日は日韓両国の新しい歴史の起点を記念すべき日」と語った。

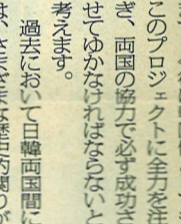
そのあと研究会九州支部の高

韓国側も努力を
前慶熙大副総長
尹世元



このプロジェクトは、五年前、文鮮明先生が理想世界建設のために提唱されたもので、日本の皆様がこの構想に真摯に取り組んで、本日のように盛大な起工式がもたらされたことに深く感謝しております。今後は韓国側としてもこのプロジェクトに全力を注ぎ、両国の協力で必ず成功させてゆかなければならないと考えています。

過去において日韓両国間には、さまざまな歴史的関りがありましたが、日韓トンネルによって両国が道路で結ばれれば、それを起点として日韓



九州大学名誉教授
高田源清

本日は見事に晴れ上がり、日韓トンネル建設にとって幸先の良い日となりました。日韓トンネルは、単に延長の長い海底トンネルという点で、非常に意義深いものと考えられます。トンネル建設の際には、技術的な問題はそれほど難しくありません。むしろ、両国の交流が深まり、長き隣人となることが出来れば、建設によってもたらされる技術的な恩恵以上に大きな価値があるものと考えています。

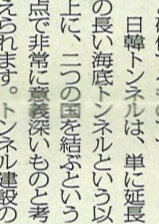
主催者・来賓あいさつ



日韓トンネル研究会会長
佐々保雄

本日は、私達にとって最良の日であるだけでなく、世界の未来に書き加えられる日であることに違いないと確信しています。

日韓トンネルは、単に延長の長い海底トンネルという点で、非常に意義深いものと考えられます。トンネル建設の際には、技術的な問題はそれほど難しくありません。むしろ、両国の交流が深まり、長き隣人となることが出来れば、建設によってもたらされる技術的な恩恵以上に大きな価値があるものと考えています。



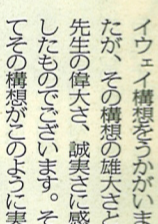
元駐韓国大使
金山政英

私は外交官として、常々平和の問題を考えていますが、結局、国家同士が協力して善なることをする努力がない限り、世界平和は達成できないと考えているようになりました。真の意味で平和な社会は、各国がお互いの幸福のために



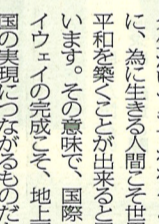
西堀栄二郎
日韓トンネル調査斜坑副会長

本日は、人類にとって記念すべき日であることに感謝しております。このプロジェクトは、両国の協力で必ず成功させてゆかなければならないと考えています。



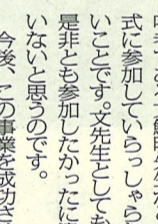
持田豊
青函トンネル完成間近

青函トンネルも完成間近ですが、青函の技術的蓄積がまさに日韓トンネルの基礎として、更には日韓友好



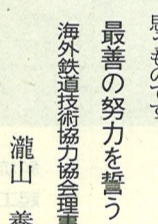
吉田健三
鎮西町長

このプロジェクトは、日韓両国の歴史の中で非常に重要な一歩を踏み出したことと見なされています。私自身、これを機会に今後、鎮西町と韓国との友好の輪をさらに深めてゆきたいと考えています。平和を建設するこの崇高な事業が、これからも順調に進められてゆくことを町民を代表して深く祈るものであります。



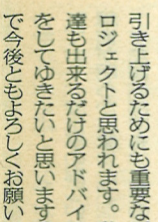
石田二郎
熊谷組福岡支店長

日韓トンネル計画を聞いた時、私は最初これは夢だと思いました。しかし本日、はからずも斜坑の起工式が現実に行われました。そして政界、学界のリーダーの皆様、もっとも感銘深いことは、韓国の学界を代表する皆様がこの式典で祝辞を述べられました。これは夢ではなく現実のものでもあります。



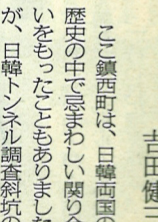
瀧山 養
海外鉄道技術協力協会理事長

私は仕事上、技術協力を通じて韓国と深い関係を生み上げてきたことと誇りに思っています。このプロジェクトの成功のために今後より一層の努力を捧げようとする次第です。



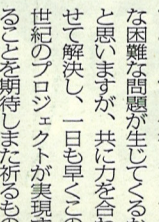
青函から日韓へ
元建設公団海峽線部長
持田豊

本日は、人類にとって記念すべき日であることに感謝しております。このプロジェクトは、両国の協力で必ず成功させてゆかなければならないと考えています。



日韓友好に意欲
鎮西町長
吉田健三

このプロジェクトは、日韓両国の歴史の中で非常に重要な一歩を踏み出したことと見なされています。私自身、これを機会に今後、鎮西町と韓国との友好の輪をさらに深めてゆきたいと考えています。平和を建設するこの崇高な事業が、これからも順調に進められてゆくことを町民を代表して深く祈るものであります。



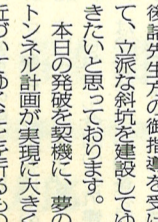
石田二郎
熊谷組福岡支店長

日韓トンネル計画を聞いた時、私は最初これは夢だと思いました。しかし本日、はからずも斜坑の起工式が現実に行われました。そして政界、学界のリーダーの皆様、もっとも感銘深いことは、韓国の学界を代表する皆様がこの式典で祝辞を述べられました。これは夢ではなく現実のものでもあります。



草場哲夫
自民党佐賀県連事務局長

私ども業者として、非常に有意義な事業に参加させて頂いた事を大変誇りに思っています。今後、両国間の交流が深まり、長き隣人となることが出来れば、建設によってもたらされる技術的な恩恵以上に大きな価値があるものと考えています。



瀧山 養
海外鉄道技術協力協会理事長

私は仕事上、技術協力を通じて韓国と深い関係を生み上げてきたことと誇りに思っています。このプロジェクトの成功のために今後より一層の努力を捧げようとする次第です。